

目標達成計画

作成日：平成22年10月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 45 | プライバシーと安全に配慮した入浴体制について施設としては同性介助を目標にしているが、入居者とスタッフの男女比が違うので、入浴・フロア対応・その他の業務のローテーションのバランスが難しい。今以上に利用者の希望や価値観に沿える業務の工夫が必要。重度化された方は安全の為移乗介助等を二人介助で行っているが、その間のフロア対応スタッフが手薄になる。 | 入居者の希望や価値観に合わせ、かつ安全性を考えた入浴体制作り | 安全で、かつ、入居者の希望や価値観を尊重し、取り入れられる入浴体制を確立する ・業務交代が発生する際に4名体制を当てる様にし、スタッフの業務負担の軽減を図りながら、同性介助が行える様にする。(介護力が必要な時に体制を厚くする工夫) ・シフトから入浴表を組んで、少しでも希望に沿える工夫を行ってみる。(シフトの条件とサービスのニーズを全体的にすり合わせていく工夫) ・限られた人員でも入浴介助に集中できる業務体制を考えてみる。 ・安全で確実な介護技術を身につけ、移乗介助などにかかる二人介助の時間を短くする。 | 12ヶ月 |
| 2 | 6 | 入居者が自由に館内を行き来されているが、階段、エレベーターを使って1Fまで移動し、居場所が確認できない事がある。安全面を考えた場合、万一階段からの転落や、1Fで事故が発生する可能性がある。 | ご本人の行きたいという意思を尊重しつつ、安全に移動できる見守りを行う | ユニット間の行き来はお互いのスタッフが見守る。階段を使われる時は、安全に見守るか、不安定で危険と思われる時は、直接的に行動を止めない声掛けをし気持ちを他の方向へ向けていただく。他者とのトラブルになりそうな時にも同様に声掛けをし、トラブルを回避する | 12ヶ月 |
| 3 | 34 | 急変時・事故発生時の対応訓練が少ない | 本社の研修・訓練だけではなく、グループホーム会議時にも行き、自信をつける | テーマを決め、定期的に勉強会を行う。一人ずつ実際にシミュレーションを行ってもらい、皆で確認し合う。 | 12ヶ月 |
| 4 | 2 | 地域のボランティアの方によるイベントや、地域へ出かけていく機会を現状より増やしたい | イベントや外出を通じ、地域のボランティアの方と入居者また、スタッフの繋がりを深める。 | スタッフ一人ひとりがアンテナを広げ、来ていただけるボランティア、地域の催しや出かけられる場所の情報収集・交渉を行う。まずは3ヶ月に一度を目標とする | 12ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。